

絶滅危惧 類 ラン科

## サルメンエビネ

*Calanthe tricarinata* Lindl.

全国カテゴリー；絶滅危惧 B類

【選定根拠】 全ての個体群で個体数が減少 全ての生育地で生育条件が悪化 全ての個体群で強い捕獲・採取圧により減少

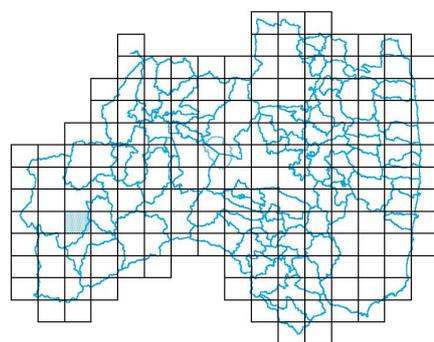
【形態】 多年草で、偽球茎は球状。葉は3～5枚根生、卵状狭楕円形で長さ15～30cm。花茎は30～50cm。6月頃、花を10個程つける。苞は卵形で1cm程。がく片は、開出し淡黄緑色で2～2.5cm。距はない。唇弁3裂し、側裂片は小さいが中央裂片は大きくて紫褐色を帯び、おおむね四角形で先端の縁にひだがあり、中央に3本の隆起線がある。側花弁は線状披針形で淡黄緑色である。サルメン(猿面)とは唇弁が赤みを帯び皺があることを猿の顔に例えたものである。

【分布】 北海道～九州、国外ではヒマラヤ・台湾に分布する。

【県内の分布、生育状況】 会津地方の自然林林床に生育する。

【生育に影響を与えている要因】 森林伐採、産地局限、園芸採取

【特記事項】 生育地の適切な保全を行うとともに、園芸用の採取・販売をしないことが望ましい。



絶滅危惧 類 ラン科

## クゲヌマラン

*Cephalanthera erecta* (Thunb.) Blume var. *shizuoi* Ohwi

全国カテゴリー；絶滅危惧 A類

【選定根拠】 全ての個体群で個体数が減少 全ての個体群で強い捕獲・採取圧により減少

【形態】 明るい林床に自生する地生の多年草。ギンランの種内変異の1つで、花以外はギンランと区別できない。ギンランの唇弁基部は短い距となって突出するが、クゲヌマランの距は浅くて突出しない。

【分布】 本州宮城県から和歌山県、四国に分布する。

【県内の分布、生育状況】 郡山市額取山。

【生育に影響を与えている要因】 園芸採取

【特記事項】 園芸採取を行わないことと自生地の保護が望まれる。

【主要文献】

福島県植物誌編さん委員会．1987．福島県植物誌．481pp．福島県植物誌編さん委員会．いわき．